記　者　提　供　資　料
2023 年(令和 5 年)12 月14日
文化・スポーツ室 文化振興担当(稲原・下城・池田) 電話918－5629　内線 7545

大久保町江井島で鎌倉～室町時代の真蛸壺を焼いた窯跡が発掘

このたび、宅地造成工事に伴って、明石市が 2023(令和 5)年 9 月 4 日から 11 月 8 日にかけて発掘調査を行っていた明石市大久保町江井島から、13～14 世紀の土師器(はじき)蛸壺を焼成した窯跡が発見されました。

調査地は、埋蔵文化財包蔵地である魚住古窯跡群の赤根川支群に含まれており、市立江井島小学校の南西約 200m、赤根川の北岸堤防沿いの河岸段丘上に立地しています。

また、当地から約 400m南西には江井島港が位置しており、ここにはかつて、行基が開いたとされる魚住泊(うおずみのとまり)が存在し、中世においては周辺の窯で焼かれた須恵器製品などの流通拠点であったと考えられています。

調査面積は約 882 ㎡です。東西方向にのびる谷筋の中腹で、鎌倉～室町時代(13～14 世紀)の土師器蛸壺焼成窯が 2 基確認されました。2 基とも平窯で、窯は底部のみが残存しており、窯壁の上部は失われていましたが、桶窯に近い構造をもっていた可能性が考えられます。

これまで市内では、古墳時代後期の飯蛸壺を焼成した土坑は確認されていましたが、真蛸壺を焼いた窯は初めての検出例になりました。また、全国の調査事例においても、土師器蛸壺の焼成窯の類例はほとんどなく、貴重な事例となりました。さらに、当該地が位置する魚住古窯跡群の赤根川支群では、13～14 世紀頃の須恵器甕・こね鉢を生産する窖窯(あながま)が存在することは知られていましたが、これらとほぼ同じ時期に、土師器の真蛸壺を専用の窯で生産していたことが明らかとなったことにより、当地域の窯業生産の実態が伺える貴重な資料が得られました。明石における真蛸壺の生産は平成 11 年に終わりを迎えていますが、この真蛸壺生産の系譜を考える上で、本調査は重要な成果となりました。

現地は、調査後埋め戻され開発工事に着手しているため、すでに見ることはできませんが、今回の調査で出土した蛸壺をはじめとする遺物などの調査成果を、令和 5 年 12 月 16 日から令和 6 年 2 月 18 日までの期間、明石市立文化博物館の 1F 常設展示室にて展示していますので、是非ご覧ください。

1 号(左)・2 号(右)窯

検出状況